

1 2023年度決算の概要について

- ◆北海道日本ハムファイターズ移転の影響により、貸館事業、商業事業、広告等の
 その他事業で大幅な減収となり、売上高は前期比約17億円減の約12.7億円
- ◆売上原価+販売・一般管理費は売上減に伴う変動費の減に加えて、固定経費の見
 直し等を実施した結果、前期比約9.6億円減の約19.4億円
- ◆これらに、光熱水費補填等の営業外収益や固定資産の減損処理に伴う特別損失を
 加えた**当期純損失は約6.5億円**となり、開業以来最大の赤字となった。
- ◆単年度要因約2億円（市への寄附・減損処理）を除いた**実質的な運営赤字は約4.5億円**
- ◆赤字を内部留保で対応した結果、利益剰余金の2023年度末残高は約15.4億円

【㈱札幌ドーム2023年度決算】

(百万円)

	2022年度	2023年度	前期比	前期比の主な要因
売上高(a)	2,976	1,271	▲1,705	日ハム移転の影響
貸館	1,368	845	▲523	イベント日数減
商業	710	186	▲524	イベント集客減
観光	10	7	▲3	
その他(広告等)	886	232	▲654	広告料収入減
売上原価+販管費(b)	2,905	1,944	▲961	原価減、経費削減、市寄附増
営業利益(a-b)	71	▲673	▲744	
当期純利益	120	▲651	▲771	上記+法人税減、減損処理

※実質的な運営赤字は▲451百万円（市への寄附・減損処理を除く）

2 5年収支見込との比較

- ◆5年収支見込において、コロナ禍の影響でイベント等の回復が遅れることを想定し、
 2023年度は約3億円の赤字見通しであったが、実績は見込の2倍以上に赤字が拡大
- ◆売上高は、コンサート等のイベント開催日数が見込よりも少なかったこと、ネーミン
 グライツが未契約であることなどにより、5年収支見込より約2.6億円の減収
- ◆売上原価+販売・一般管理費は、市への寄附（1.1億円）と光熱水費高騰（0.8億円）
 による増と、経費削減（0.9億円）の結果、5年収支見込より約1億円の経費増
- ◆市による光熱水費補填や減損処理を加えた当期純利益は、5年収支見込より約**3.6億円**
の悪化となった。

【㈱札幌ドーム2023年度決算の5年収支見込との差】

(百万円)

	2023年度 5年収支見込	2023年度 実績	差	5年収支見込との差の主な要因
売上高(a)	1,535	1,271	▲264	
貸館	994	845	▲149	コンサート等のイベント日数減
商業	180	186	6	
観光	13	7	▲6	
その他(広告等)	347	232	▲115	ネーミングライツ未契約
売上原価+販管費(b)	1,843	1,944	101	経費削減、光熱水費増、市寄附増
営業利益(a-b)	▲308	▲673	▲365	
当期純利益	▲294	▲651	▲357	上記+光熱水費補填、減損処理

3 これまでの取組実績

【イベント開催実績】

- ◆2023年度の総イベント日数は、プロ野球の減（▲61日）を補うため、コンサート、コ
 ンベンション、アマチュアスポーツ等の誘致・開催を積極的に進めたものの、**前期比
 26日減、5年収支見込より9日減の98日の開催にとどまった。**
- ◆コンサートの開催日数は、新モードでの開催も含めて5年収支見込で14日を想定して
 いたが、半減の7日となった。
- ◆設営・場面転換等を加えた総利用日数は229日、稼働率は62.6%となり、コロナ禍以前
 の水準（2019年：69.9%）までは回復できていない状況

【経費削減の実績】

- ◆以下の経費削減の取組により、5年収支見込の想定以上に経費削減を実施
 - ・退職不補充等による人件費削減（㈱札幌ドーム職員数：2019年の最大82名→55名）
 - ・委託業務の業務範囲見直し（守衛所の夜間業務時間の短縮、事務所清掃回数の減等）
 - ・管理コストの削減（駐車場機械化による要員減、広告媒体の見直し等）

【ネーミングライツの状況】

- ◆5年収支見込では2023年度中の契約を想定していたが、広告価値の調査に時間を要し、
 1月に公募を開始したものの正式応募はなく、年度内での契約には至らなかった。

【2023年度の札幌ドームイベント開催実績】

(日)

	2022年度 実績	2023年度 5年収支見込	2023年度 実績	前期比	5年収支 との差
プロサッカー	18	20	20	+2	0
コンサート	2	14	7	+5	▲7
コンベンション等※1	16	30	29	+13	▲1
自主・共催イベント	6	13	12	+6	▲1
その他プロスポーツ	4	3	3	▲1	0
アマチュアスポーツ	10	27	20	+10	▲7
プロ野球	63	-	2	▲61	+2
その他※2	5	-	5	-	+5
総イベント日数	124	107	98	▲26	▲9
総利用日数	220	-	229	+9	-
稼働率	60.3%	-	62.6%	+1.3	-

※1 「コンベンション等」には、子供向け体験イベントや参加型の集客イベント等が含まれる。
 ※2 「その他」には、企業利用や行政利用等が含まれる。

4 今後の収支改善の取組

【収支改善の取組目標】

2023年度の当期純損失(約6.5億円)から単年度要因約2億円(市への寄附・減損処理)を除いた約4.5億円の運営赤字の解消が、2024年度以降の収支改善の取組目標

①貸館収入の増 収支改善目標 2.5億円以上

- 2024年度のイベント日数は、5月末時点の見込みで昨年度より25日増、5年収支見込より11日増の123日(現時点で開催済31日、公表済34日、調整済46日、調整中12日)
「ポケモンカードチャンピオンズリーグ」、「ラグビー日本代表戦」など、集客力や話題性のあるイベントを誘致
新規イベント助成(札幌ドーム活用促進費)を活用し、食フェス「HTB真夏の汗激フェス」、花火大会「道新・秋華火」の新規開催が決定。さらに、道外・海外からの誘客が期待できる大規模イベントや人気の子ども向けイベント等の誘致を進めている。
更なる利用促進や収支改善を目指して、使用料等の在り方を検討

②広告料収入の増 収支改善目標 2.0億円以上

- ネーミングライツの早期決定による増収を目指す。
新規広告商品の販売促進による増収を目指す。

③経費削減

- 2023年度決算での固定資産減損処理により、今年度以降の減価償却費が縮減
サービス水準の低下につながらない範囲でのコスト削減を継続

これらの取組により、2024年度以降の黒字化を目指す。

【2024年度の札幌ドームイベント開催見込(2024年5月末時点)】

(日)

Table with 6 columns: Event Type, 2023 Actual, 5-year Forecast, 5-month-end Forecast, 2023 Difference, 5-year Forecast Difference. Rows include Soccer, Concert, etc.

※1 「コンベンション等」には、子供向け体験イベントや参加型の集客イベント等が含まれる。
※2 「その他」には、企業利用や行政利用等が含まれる。

【5年収支見込の見直しについて】

- 5年収支見込では、5年トータルで約9,000千円の黒字を見込んでいたが、初年度である2023年度の赤字が拡大したことにより、トータルでの黒字化が困難となる見通し
コンサート開催見込やネーミングライツを含めた広告料収入の見直し、さらには物価高騰など、5年収支見込策定時からの状況の変化を踏まえ、収支計画の見直しが必要

5 札幌ドームの将来像

収支改善に取り組むことに加えて、公の施設であり、市民・企業の大切な財産である札幌ドームを最大限活用し、その恩恵を市民や地元企業に還元できるよう、札幌市と札幌ドームが連携・協力して取り組む。

【目指す将来像】

プロ野球中心の「ドーム球場」から 真の「全天候型多目的施設」へ転換・発展し、日常的に賑わいがあふれる「新生札幌ドーム」を目指す

①集客交流施設としての機能を高める

- 道内外から人を呼び込む新たな機会を数多く提供し、地域経済の活性化に寄与することを目指す。

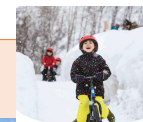
②多くの皆さまに広く活用してもらう

- アマチュアスポーツの聖地、子ども達の貴重な遊び場、地域や地元企業の身近な交流拠点として、多くの皆さまに親しまれる地域のシンボルを目指す。

【具体的な取組】

①集客力の高いイベントの誘致・開催

- 観光客向け雪体験イベント
花火大会や食フェス
コンサートや音楽フェス
ゲームやアニメのイベント



③子どもたちに貴重な遊び場と特別な体験を提供

- 冬休み期間中に子ども向けイベントを集中開催
「ゆきひろば」リニューアル
少年野球・サッカー大会拡大



②多種多様なプロ・アマチュアスポーツの開催

- コンサドーレ戦の魅力向上
ラグビー文化の定着
アマチュア大会継続・拡大
新たなスポーツイベント誘致



④市民や企業の身近な交流拠点としての活用促進

- 参加型イベントの継続開催
平日の企業・団体利用促進
地域住民の日常的な健康づくりや交流の場として利用促進

